

ことば



令和7年11月
舞鶴市立余内小学校
通級指導教室 75-0379

～協力することの大切さ～

寒さが少しずつ見え始め、秋らしい季節になってきました。運動会など大きな行事を無事に終え、子どもたちはホッとしたような表情で、通級では体を思い切り動かしたり、それぞれのめあてで学習をしたりしています。

最近、前半の運動では、2～4人で協力して取り組む活動を多く取り入れています。例えば、風船バレーで落とさずに何回ラリーを繋げられるかや、2つの棒の端を持ち、その間にボールを挟んでどのくらいの時間で運ぶことができるかなどにチャレンジしています。活動をする中でうまくいかないこともあります。そんな時は「なぜ今はうまくいかなかったのかな?」「次はどうしたらもっとうまくいかな?」と子どもたちと振り返るようにしています。その中で子どもたちは、「もっと相手に声掛けをしたらいいと思う。」「自分は止まって、〇〇さんがその間に回ったら上手に運べると思う。」などと、自分なりに言葉にして考えています。複数で協力して活動をすることで、相手の気持ちを考えながらコミュニケーションをとる力が身に付いたり、1人だけでは気付かない視点や新しい活動を思い付いたりするなど、様々な力を付けることに繋がります。何より、友達と一緒に活動することで楽しさを共有することができ、安心感や自己有用感も生まれます。

友達と協力して活動することのよさを大切にしていき、一緒に振り返りながら子どもたちの活動を見守っていきたいと思います。



11月の行事予定

- 5日(水) 職員研修会のため、
午後の指導はお休みです。
- 10日(月) 舞鶴市教育相談
- 11日(火) 就学時検診のため、
午後の指導はお休みです。

学年・学級閉鎖について

寒くなり、感染症が流行しやすい時期になってきました。もし在籍校で学年・学級閉鎖になった場合、お子さんが元気でも、流行の拡大を防ぐため、指導はお休みになります。その場合は教室までご連絡ください。





『勇気づける言葉』で子どもは育つ



日々成長過程にある子どもはみな、生まれながらに『挑戦する力』『思いやる力』『我慢する力』など、さまざまな力を蓄えています。こうした力を健やかに育てるために大切なのが『言葉』と『思い』です。普段から「思いやりのある子ね。」と声をかけられている子は、「私は思いやりのある子なんだ。」というプラスのセルフイメージを持つことができるようになっていきます。

アドラー心理学では、言葉かけのベースとして『勇気づける』ことが大切であると説いています。『勇気づけ』とは、一言でいうと【困難を乗り越えられるように援助すること】目の前の子どもの行動そのものや、その行動の『結果』で評価するのではなく『過程』や『姿勢』に注目する。そして子どもの気持ちに寄り添い、できないことや苦手なことがあっても「大丈夫！」と子どもを信頼し、「頑張っているね。」「失敗しても大丈夫だよ。」などと【言葉をかける】＝【勇気づける】ことで、子どもは、自分のことを信頼し、困難があっても乗り越えていけるようになる…という考え方です。

『勇気づける言葉』は、どんなことを意識すればいいのでしょうか？

ポイント1



『できていないこと』よりも『できていること』に注目』

これまでピーマンが苦手で全く食べられなかった子が、一口でも食べることが出来たらそれは大きな成長。「ピーマン一口食べられたね。」と言葉かけできます。全体的にできなかったとしても小さな『できたこと』に注目してもらえた子は自信が付き自己肯定感がアップします。

ポイント2

『結果』ではなく、『過程』に注目する



結果に至るまでの『過程』や取り組む姿勢に注目し「結果は残念だったけれど、一生懸命やっていたね。」と言葉かけをすることで、子どもの心に結果よりもチャレンジすることが大切なのだという意識が芽生えます。

ポイント3

『共感し、寄り添う』



頑張っても結果が伴わなかった、大事な試合で負けてしまった…と子どもが落ちこんでいるときには、まずは子どもの気持ちに寄り添い「残念だったね。」「悔しいだね。」と共感した上で『次はどうしたらいいの？』についてじっくり話し合みましょう。過去の失敗に向いていた視点を、未来の方向に切り替えることでやる気を再びアップさせます。

ポイント4

『当たり前』のを探す



朝「おはよう」と言う。食事する。学校に行く。友達と遊ぶ。学校での出来事を話す。お風呂に入る。忙しい毎日の中、こうした『当たり前』のことをつい見逃しがちです。このような『当たり前』のことに注目し「挨拶すると気持ちいいね。」「おいしそうに食べているね。」など『勇気づける言葉』をかけてみましょう。子ども自身の心も満たされ困った行動を減らしていきます。

ポイント5



大人の『気持ち』も伝えよう

「えらいね。」「いい子ね。」「すごいね。」…といった『評価の言葉』よりも「お皿を運んでくれてありがとう。」「友達と楽しそうに遊んでいると私も嬉しいよ。」「大好きだよ。」…など大人の気持ちを伝える言葉を意識できるといいですね。

子どもの自信や自己肯定感を育みます。



ポイント6



他の子と比べず、その子自身の成長を重視する

友達やきょうだいと比べて「どうしてあなたはできないの。」などと叱ってしまうと、子どもの心に『マイナスのセルフイメージ』を持たせてしまい、やる気と自信をダウンさせてしまいます。「昨日は、問題を解くのに10分かかったけど今日は8分で終わったね。頑張ったね。」など、『過去の自分』に比べてできるようになったことを重視して言葉をかけることで、心の状態を心地よくさせる効果があります。

毎日の言葉かけに『勇気づけ』の考え方を取り入れると子どもの心の状態を心地よくさせる効果があります。『できた』『できなかった』という評価を重視するのではなく、やろうとしている『姿勢』に目を向ける…ここから始めてみてください。

